

公益財団法人 檉の芽会 御中

令和 6 年度伴走型就学・学習支援活動助成 実施報告書

【団体の概要】		① 作成日	令和 7 年 5 月 15 日
②法人・団体名	一般社団法人 COCORO ごはん		
③団体所在地 (都道府県・市町村名まで)	〒114-0023 東京都北区滝野川 3-24-1 (我妻気付)		
④責任者氏名	我妻澄江	(役職名等)	代表理事
⑤担当者氏名	引間亜希子	(役職名等)	事務局

【奨学活動の概要】

⑥助成交付決定番号	R06-005	⑦助成金額	100 万円	⑧申請カテゴリー	D
⑨奨学活動名	COCORO 学習支援事業 (学習室・長期休業居場所/自習室/mini こども食堂/プログラミング教室)				
⑩主な実施場所名・ 及びその住所	馬場自治会館・馬場ふれあい館 〒114-0023 北区滝野川 2-32-1				

⑪活動内容とその成果の概要（詳細は【様式 3 - 2】又は別添資料にて記載・説明ください。）

▶COCORO 学習室（学習室計 46 回/内 30 回助成対象+長期居場所事業 37 回/内 33 回助成対象）

対象と内容：基本、通塾していない地域の小/中/高校生を対象に、学習支援と居場所提供
・夏休み・冬休み・春休み等の長期休暇の平日に開催し、食事と居場所を提供。他、高校受験対策。

▶COCORO 自習室（自習室計 38 回、中学定期考査 4 回/うち 3 回分助成対象）

対象と内容：地域の中学生対象に定期試験前の学習を支援
・大学生・社会人講師が、必要な生徒にはほぼマンツーマン体制で学習を支援（夜食提供）

▶mini 子ども食堂（mini 子ども食堂 47 回）

対象と内容：COCORO 学習室に日期的に通えない小/中/高校生と日常的にサポートが必要な家庭対象
・子ども食堂を開催しない第 1、3 水曜日開催、食事を提供し、学習支援。

▶プログラミング教室（プログラミング教室 23 回）

対象と内容：学習支援教室に登録している小・中学生
・学校から貸与のタブレットを使い、この先の IT 社会に通るスキルを身につける。

⑫奨学活動の定量的把握（注：統計情報として参考まで把握するものです。活動成果等は上段⑪及び様式 3 - 2 等でご報告願います。）

支援対象	延べ人数 (A：人)	平均時間 (B：時間)	活動量 (A x B)	備考・補足・計算根拠等
中学生等	1,102	3	3,306	
高校生等	81	3	243	高校生講師含む
大学生等	407	3	1,221	大学生講師含む
学習支援員等	235	3	705	社会人講師
その他	984	4	3,936	スタッフ、ボランティアスタッフ含む
合 計			9,411	

⑬その他の定量的な数値（任意）[滝野川子ども食堂,東京都北区,COCORO ごはん \(t-kodomosyokudo.com\)](http://t-kodomosyokudo.com)

令和 6 年度伴走型就学・学習支援活動助成 実施詳細報告書

奨学活動名：COCORO 学習支援事業

(学習室・長期休業居場所/自習室/mini 子ども食堂/プログラミング教室)

法人・団体名：一般社団法人 COCORO ごはん

作成者 氏名：引間亜希子

1. 取り組んだ課題や実践した目的・実施内容について

【目的】

温かい食事や会話をきっかけに、地域の子どもや子育て中の家庭とつながり、学校・家庭の問題を一緒に解決する。

【実施内容】

○学習サポート

学習に問題を抱えた子ども達が、それぞれが望む進路に向かえるよう、元教員、社会人、大学生等を講師に学習支援を行う。

○長期居場所事業

ひとり親世帯では非正規雇用の親が多く、仕事と家計が直結している。長期休暇中の居場所は親にとって死活問題。十分な学習環境を享受できていない子どもの居場所を、食のサポートとともに提供する。

○ファミリープログラム

こどもについての困りごとを当事者と一緒に解決に向けたサポート（アウトリーチ型）を行う。

2. 実施した奨学活動の詳細

○COCORO 学習室【奨学対象事業】（非公開事業）

学習室

13 名登録：計 46 回（毎週木曜日：約 2 時間）/うち助成対象 30 回

都立高校受験対策

1 名登録：19 回（10 月～主に火/土/日曜日、スピーキングテスト対策・ヒアリング対策含：約 30 分～2 時間）

長期居場所事業

13 名登録：37 回（夏休み・冬休み・春休み等長期休暇の平日、終日）/内助成対象 33 回

対象と内容

塾に通っていない地域の子どもを中心に、学習支援と居場所提供

・養護教諭から紹介のあった家庭や母子家庭、不登校等の子ども等、当団体が学習のサポートが必要と判断した子どもが登録。

・食事と居場所を提供。

○COCORO 自習室【奨学対象事業】（非公開事業）

自習室

7 名登録：計 38 回

(中学定期考査 4 回/年中 3 回助成対象期間、平日：約 3 時間、休日：半日)

対象と内容

地域の中中学生対象に定期試験前の学習を支援

・都立高校を目指す子どもたちには、定期考査や事前の課題提出がとても重要。ワークや過去問題を中心に、大学生・社会人講師が、必要な生徒にほぼマンツーマン体制で学習を支援（平日は夕食提供）。

〇mini 子ども食堂【奨学対象事業】

mini 子ども食堂

13 名登録 47 回（第 1， 3 水曜日：約 2 時間）

対象と内容

COCORO 学習室に日程的に通えない子どもと日常的にサポートが必要な家庭対象

・食事を提供し、学習支援実施。

〇プログラミング教室【奨学対象事業】

プログラミング教室（共催：NPO法人プログラミング教育研究所）

7 名登録：23 回（第 1， 3 水曜日：約 1 時間）

対象と内容

学習支援教室に登録している小・中学生

・学校から貸与のタブレットを使い、この先の IT 社会に通るスキルを身につける

〇ファミリープログラム【奨学対象事業】

16 家庭（こども 27 名）

対象と内容

こどもからの「困った」に地域の財産とチームを組み、早期対処することで問題の深刻化を防ぐ。

登校支援、不定期で制服や学用品等の物品調達支援、習い事の引率、催し物の参加、選択・清掃支援、高校見学引率など。

【周知方法】

- ・助成対象事業に関しては非公開なため、周知せず
- ・近隣小中学校との連携や、運営する子ども食堂でスタッフが必要と思われる子どもに声をかけ参加を促している。
- ・公開事業である子ども食堂（奨学非対称事業）は Facebook などで開催の周知をしている。

【協力いただいた関係者】

- ・北区社会福祉協議会
- ・北区子ども未来課
- ・NPO法人プログラミング教育研究所
- ・地域自治会
- ・地域の学生ボランティア他

【地域やボランティア活動との連携】

〇学校との連携の継続

- ・地域の小中学校とは常に連携し、学校で問題行動のある子どもや、児童相談所が絡む家庭など学校から依頼を受け子ども食堂をツールに各家庭とコンタクトを取る。
- ・当団体の活動状況を定期的に学校に伝え、一緒に解決策を探り、双方向での連携を図る。

○北児童相談所および子ども家庭支援センターとの連携

・問題のある家庭を情報共有し、継続してフォローしている。児童相談所に一時保護されてしまうと学区の学校へ通うことが出来なくなる為、できるだけ環境を変えず安心して生活できるよう、また事が大きくならないように問題の早期発見・早期解決に向け活動する。

○学生ボランティア団体の受け入れ

・地域の大学や「北区 NPO・ボランティアぷらざ」と連携し、体験学習の学生やボランティア希望の学生を定期的に受け入れ、子ども達の良き遊び相手として活躍して頂いている。今後も継続受入実施。

○大学との連携

・学生講師の所属している大正大学 BBS 会は毎年季節の出張イベントを開催、子どもたちの楽しみの一つの年間行事になっている。BBS の主旨と当会代表（保護司）の思いがマッチし、「孤独孤立の若者が犯罪組織とつながる」事を防ぐために居場所事業の推進に協力を要請する。

・東洋大学福祉社会デザイン学部の川原ゼミからは、子ども食堂のボランティアをきっかけに子どもとの交流、学習支援としてのマンパワーを提供して頂いている。また東洋大学主催の「ワンワン読書会」「東洋大学キャンパスフェスティバル」などのイベントにも参加させていただき、子ども達が大学を身近に感じられる経験を積んでいる。また当団体代表が同学科全体の報告会に参加する等、交流の幅が広がり、子ども達の体験価値を高める場を提供してもらえるよう関係性を構築する。

○地域の若者との連携

COCORO 自習室に通っていた高校生や大学生/社会人講師を含めた地域の若者で構成。バレーを通じ学校以外のつながりを強化し、自分たちで居場所を作っている。バレーメンバーから COCORO の講師へ、メンバーが高校卒業に向け COCORO を学習の場とするなど交流を促進する。

【学習支援員について】

○学生講師

・登録している大学生講師の多くが、小学生より関わっていたメンバー。
・地域で子育てするサイクルを回すことも目指している。
・学生講師は、教員や精神保健福祉士、心理士等を目指す。
・問題を抱えた子が学習する意欲を持つには、学習の指導だけでなく、一人ひとりの状況に合わせて寄り添うことが必要とされ、学生たちはそんな子どもたちに忍耐強く寄り添い、子ども達から信頼されている。近い将来のロールモデルとして、欠かせない存在。

○社会人講師

・元学生講師や元教員、元 COCORO 学習室に通っていた子どもの保護者を中心に、当団体の活動に賛同した地域住民からのサポートを得ている

3. 本活動から得られたもの、反省点、課題、今後への発展性、等

【成果】

・高校受験 サポート 1 名の進路状況—**第一希望合格**
(都立高校 推薦合格)

2024 年 4 月より急遽メンバーに加わった受験生。英語力定着の為、社会人講師宅に平日 15 分、ほぼ毎日英語に触れる事を目的に英語のワンポイントレッスンを実施。(COCORO 受験対策の日数にはカウントしていない) 都立高校入試スピーキングテスト (ESAT-J) でも「B」評価。

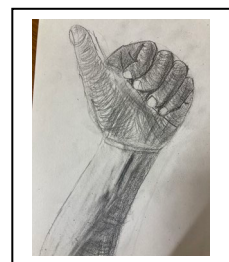
結果英語に力を入れている都立高校への推薦が決まった。

- ・COCORO 自習室での定期考査による成績 UP

都立高校受験では定期考査の成績が大きく影響するため、副教科を含めた 9 教科のレッスンも行い、内申点 UP につなげた。

右図は美大出身講師の指導の成果。

BEFORE



AFTER



【課題】

- ・早期の基礎学力定着の必要性

漢字/計算は小学校からの蓄積なので、中学 1 年での段階で躓くとリカ

バリーが難しい。また英語も本格的に始まり、より早期の基礎学力の定着が求められる。

- ・継続の重要性

今年度の受験生は、社会人講師のサポートのもと日常的に英語レッスンを開催し最終的には成績に結び付いたものの、その必要性を自覚するまでに時間を要した。

英語に限らず、短期記憶だけでは学力に結び付きにくい教科は、講師・場所・時間を確保して、継続したサポートが求められる。

- ・安定的な食・学習サポート提供への人材確保

年々事業拡大とともに開催回数も増え、スタッフの負担も増えている。また学生・社会人講師の人員確保も継続的なサポートのためには必須。引き続き、長期的な人材確保に努めたい。

- ・事業規模拡大に伴うステップアップ

子ども達の成長に合わせ、更なるステージでのサポートが当団体へ求められ、この先の事業範囲の拡大が見込まれる。今後も、事業に合わせたスタッフの更なるスキルアップ（研修など）を目指したい。

【今後への発展性】

・学生講師を含め、地域の若者と関わることで、教員や社会福祉士などその後の進路に当団体の活動が彼らの人生に影響を与えている。子ども達の抱える問題を学生の頃から肌で感じ社会に出ていく事はその先の彼らの視野の広さ、社会への貢献につながっていくと思われる。

・受験を経て高校生になった子ども達が継続して当団体の活動に参加している。今まで自身が経験した学習者中学校生活のノウハウを伝授し、良きロールモデルとなっている。学年を越えた交流が難しい昨今、お互い支え合う力を養うことができつつある。

・近隣大学の協力を得、関わる学生ボランティアの人数も増えてきている。その中から、社会人になっても同じような志を持ち、地域活動に継続的に参加していく若者たちを作り見守っていきたい。

4. 本活動におけるエピソード、思い、感想、等（任意）

・ここ数年の事業拡大には助成金の存在が大きい。学力 UP のためには継続的なサポートが必要だが、そこにかけるマンパワーは当会員だけでは補えない。その人材確保の面でも、活動に賛同し、支援して頂ける事は大変ありがたい。

・多感な時期に居場所となる「逃げ場所」は欠かせない。家では見せない表情を当会では見せることも多く、保護者からの信頼も得ている。勉強だけでなく食のサポートも居場所にとって必須条件。配膳のルールや片付け・衛生管理など親からの学びとともに、友人たちから得るものも多い。引き続き社会に出た際に戸惑わないように最低限の生活力を身につけられるよう導いていきたい。

・実際、問題となる行動も発生している。しかし 1 年の多くを一緒に過ごすことで、その子の「個」が見え、何が「普通」な状態なのか、どんな行動があれば「危険」なのかを見抜くことが可能になる。早めの対応や関連する公共資産と連携することで大きなトラブルになることを防いでいきたい。

以上